

## 資料

### スギ人工同齡林における進階年数計算の一例<sup>※</sup>

山 畑 一 善\*

#### はじめに

著者はこれまで、香川県牟礼町と愛媛県菊間町にある三つのマツ 抜伐林について、進階年数を査定した。<sup>1) 2) 3)</sup> 今回は、昭和45年春現在、林齢54年をかぞえるスギ人工同齡林を対象として、計算した結果を報告する。スギ同齡一斉林に対する進階年数査定の試みは、本報が学界最初のものとなろう。

林分の進階年数は、そのときどきにおける林木生長の遅速を明示し、林分取扱いに目安を与えるのみならず、林分相互の生長速度の比較にも便利である。抜伐作業の森林経理あるいは照査法の実施には、その査定は不可欠のことと言つてよいが、皆伐作業・同齡一斉林の場合にも、もっと活用されてよいと考える。

#### 原 資 料

原資料は、京都府立大学農学部、付属大野演習林26林班に設置されている、測定試験地の計測数値である。すなわち、昭和32年11月（1957）設定当時と、昭和42年11月（1967）とにおける直径階別本数、ならびに10年間の伐倒木・枯損木の本数である。なお、測定試験地の地況・林況その他くわしくは、京都府大演習林報告第13号“大野演習林測定試験地の記録”（昭和44年）を参照されたい。

ところで、著者は、利用した原資料に関して、ここに若干のコメントと訂正をしておかねばならぬ。

府大演報の“記録”的著者、大隅教授は、その前文において「……さらに本学関係者以外の方々にも利用してもらう意味で、できるだけくわしいデータを公表しておくことは、われわれにとっての学究としての義務でもある。ここにこの記録をとりまとめた動機がある。同学諸氏の参考になれば幸いである。」と述べている。著者も同学末席の一人として、じつは利用させてもらった訳なのであるが、この計算の過程において、少なからぬ誤りを発見したのである。それは、同演報97頁以下記載、“胸高直径の分布”的内容に影響をおよぼすのみならず、場合によっては、大隅教授既往の論文に再検討を迫る恐れのある、重大なミスなのである。多数立木の計測数値を集計する場合、往々にして犯しやすい誤りではあるが、数値をあつかう学徒としては、それだけに念には念を入れるべきである。なんとしても、軽率のそりは免れないであろう。

さて、重大な誤りは、97頁の表2である。著者は、大隅教授ならびに梶原助教授に電話をもって問合せ、同表に誤りあること、102頁以下、付表2の測定値は信頼し得べきこと、を確認した。そこで、付表2から丹念に集計し直し、97頁の表2を訂正するという作業を行なわざるを得なかった。正しい直径階別本数は、別表1に示すとおりである。したがって、当然のことながら、93頁の表1、97頁の表3、101頁の表6など、数値が変わるであろう。再計算を期待する次第である。

著者は、大隅教授から演報のプリントを頂戴したのであったが、それには1枚の正誤表がはいっていた。“設験地”を“試験地”に、“松本欣也1960”を“松本欣也(1960)”に、ただそれだけであった。表2の致命的な誤りを、しばらくおくとしても、付表2には、間伐年が(1658), (1698), (1996)と記されたもの、合計5本をかぞえるのである。いずれが正誤表の対象として、より意味あるものであろうか。

なお、表2の第3欄は“間伐”と書くべきではなく、“伐倒”または“伐採”とすべきであろう。また、その伐倒木と枯損木について、あるいは伐倒され、あるいは枯損と認定された時点が不明なこと、ならびに直径

※ Kazuyoshi YAMAHATA : An Example of Calculation for the Time of Passage of the Even-aged Sugi Stand.

\* 森林計画学講座 教授

別表1. 直径階別本数

胸高直径(cm)	1957年11月	1957年～1967年の間の		1967年11月	1968年間伐木	1968年間伐直後
		伐倒	枯損			
12	7			2	2	
14	50		3	18	12	6
16	125	1	6	47	30	17
18	134	3	5	89	51	38
20	185	3	12	133	69	64
22	212	8	3	149	75	74
24	214	4	2	156	51	105
26	213	3	3	173	50	123
28	206	2	3	183	41	142
30	167	3		171	28	143
32	154	6	5	165	19	146
34	114			151	10	141
36	86		1	123	10	113
38	55	1	1	105	3	102
40	34	1	1	92	1	91
42	21			58	2	56
44	17			41	2	39
46	8			28	1	27
48	7			17		17
50	1			10		10
52	1			10		10
54				4		4
56				3		3
58				2		2
60				1		1
合計	2,011	35	45	1,931	457	1,474

注) 1957年～1967年の間の伐倒木、枯損木の直径は1957年における測定値

別表2. 遷 階 年 数 の 計 算  
Table 2. Calculation of the time of passage.

D.B.H. (cm)	Initial inventory (1957)		Final inventory (1967)		Pro- motions	Move- ments	Sta- tionary	Movement of initial stand	Movement of final stand	Twice the mean promotions	Twice the mean stand	Time of passage (Yrs.)			
	Stem number	Detail	Stem number	Detail									(11)	(12)	(13)
60			1	1	4	4				4	4	1	(2.5)		
58			2	1	4	5				9	9	2	(2.2)		
56			3	3	5	5				12	12	3	(2.5)		
54			4	3	3	9				13	13	4	(3.1)		
52	1	1	10	7	3	4	21			4	33	11	(3.0)		
50	1	1	10	10	3	3	30			4	30	11	(3.2)		
48	7	3	17	13	4	2	8			5	47	24	3.3		
46	8	1	28	8	2	2	16			12	73				
44	17	3	41	13	2	2	26			9	76	101	36	3.6	
42	21	4	41	28	3	3	84			8	110	160	58	3.6	
40	33	8	58	25	2	2	50			16	149	204	79	3.9	
38	33	13	93	33	3	3	99			26	60	227	313	126	4.0
36	25	28	41	52	2	2	104			123	84	242	376	158	4.2
	25	105	73	73	2	2	146			96	50			208	4.6
	123	32	41	32	3	3	99			104	117	234	252	455	
			6	6						18	18				

34	114	41 73	151	151	2	302		123 146	302	571	265	4.6	
32	149	32 117	171	8 163	1	8 326		96 234	334	664	320	4.8	
30	165	6 151	172	40 132	1	40 264		18 302	304	632	337	5.3	
28	203	185 40	163 132	78 107	1	78 214		326 40	292	658	388	5.9	
26	210	176 78	176 71	105 142	1	105 142		264 78	247	589	386	6.6	
24	212	160 105	160 22	138 22	1	138 44		214 105	182	501	372	7.4	
22	209	71 138	157	157	1	157		142 138	157	437	366	8.4	
20	179	22 157	142	130 12	1	130 24		44 157	154	355	321	9.0	
18	130	93	93	93	1	93		130 93	93	223	223	10.0	
16	123	12 93	52	(18) 34	0 1	0 34		24 93	34	151	175	11.6	
14	48	18 14	19	(14) 5	0 1	0 5		14 0	34 0	5	39	67	17.2
12	7	5 2	2	(2)	0	0		2 0	5 0	0	5	9	(18.0)
Total	1,975		1,975	1,941 <u>(34)</u>	Promotions Stationary		34	3,308+3,308=6,616			3,950		
								The average time of passage	$10 \times \frac{3,950}{6,616} = 5.970$				

がそれぞれの時点での測定されなかったことは、"記録" が貴重な資料であるだけに、惜しまれてならない。

### 計算および結果

直径が 2 cm 括弧で期間が 10 年なので、2 階級も 3 階級も進んだ立木が少くない。よって、これまでと同じく、重複計算法を採用することとした。

進階年数計算の全過程および結果は、別表 2 に示すとおりである。第 2 欄は、1957 年 11 月の原本数から、期間前半の伐倒木・枯損木を差引いたもの、第 4 欄は、1967 年 11 月の終時本数に、期間後半における伐倒木・枯損木を加算したものである。別表 1 の期間内伐倒木・枯損木、合計 80 本は、前述した "記録" の末尾付表からピックアップして整理してみると、別表 3 のごとくである。期間中央は、1962 年であるから、1963 年以前の伐倒木・枯損木は、さらに二つに分けて、それぞれ期間前半のそれ、期間後半のそれ、と見なすこととした。折半を原則とするが、年数の長短を考慮して、前半にはいる本数が多くなるようにした。つまり、別表 3 で 2 欄と 5 欄の本数は原本数から引かれ、3・4・6・7 欄の本数は、終時本数に加えられたのである。なお、別表 2 の第 2・4 欄を除く、各欄の意味や見方については、前報<sup>1)</sup>を参照されたく、ここには省略する。

さて次に、得られた若干の知見を列記してみよう。

- 1) 試験地林木の平均進階年数は、6 年と推定される。すなわち、林齢 47 年当時における、生長速度を示す指標である。
- 2) 原階停止木はわずか 34 本であるが、小径級にのみ存在する。これは、マツ伐作業林でも認められた現象である。
- 3) 直径階別平均進階年数は、直径が大きくなるほど短くなる傾向がある。この事実は率直に言って、意外に思われた。閉鎖した同齡林では、直径が大となるにつれて進階年数が長くなる、とは Knuchel の述べるところであり<sup>4)</sup>、著者も信じていたことなのである<sup>1)</sup>。なお、未公表資料ではあるが、愛媛県久万町にある著者の試験林でも、同じ傾向を確認している。若しこの傾向が、一般的なものであるとすれば、まさに新知見ということになるであろう。

別表 3. 期間内伐倒木・枯損木の内訳  
Table 3. Detail of dead standing and felled trees from 1957 to 1967.

D.B.H. (cm)	Felled trees		Dead standing trees		
	Before 1963	After 1964	Before 1963	After 1964	
14				2	1
16			1	2	2
18	2	1		2	1
20	2	1		4	3
22	3	3	2		5
24	1	1	2	1	1
26	1	1	1	2	1
28	1		1	2	1
30	2	1			
32	2	1	3	3	2
34					
36				1	
38	1			1	
40			1	1	
計	15	9	11	21	12

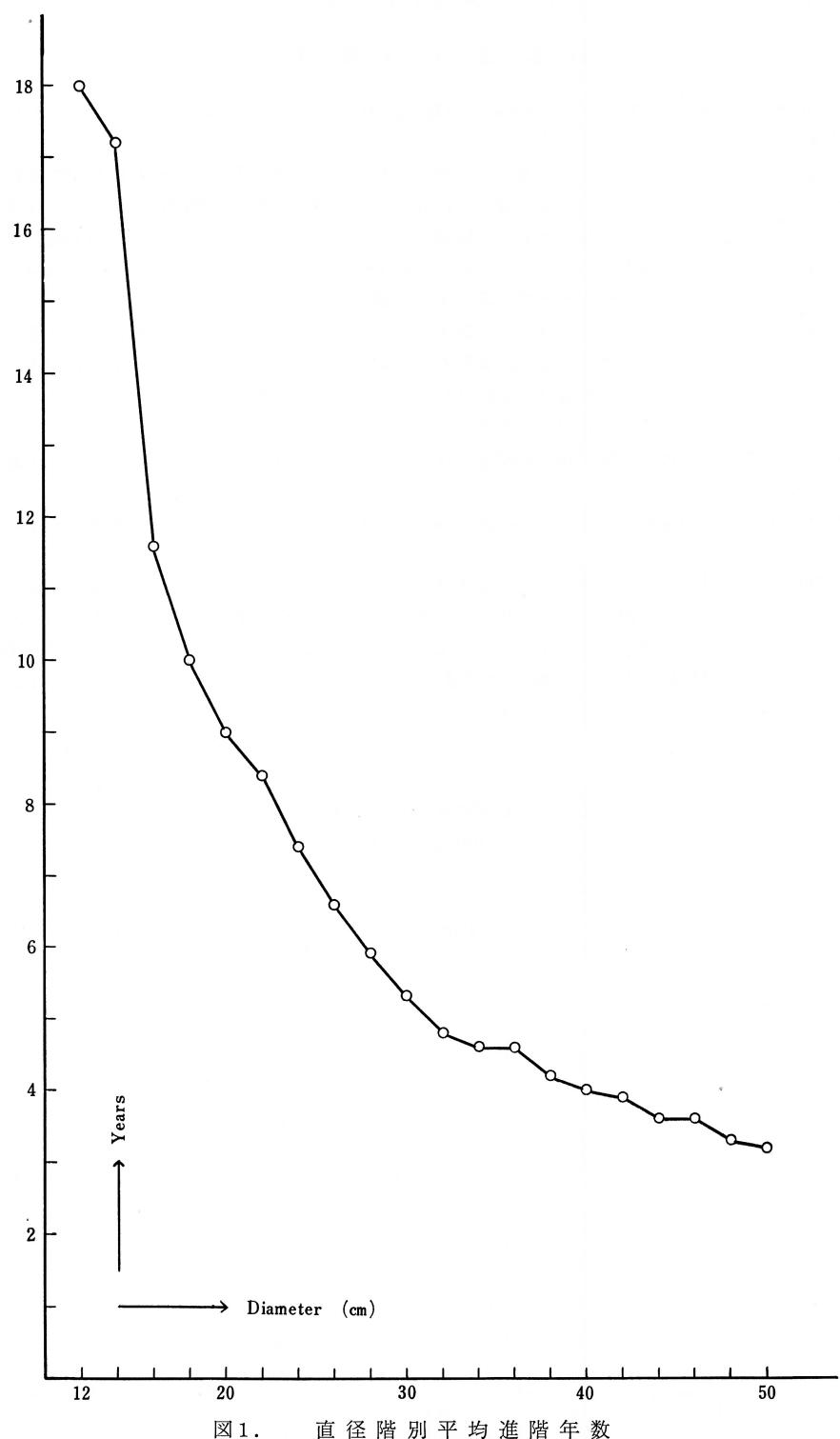


図1. 直径階別平均進階年数  
Fig. 1. The average time of passage by the diameter grade.

## む　　す　　び

京都府立大学大野演習林の計測データを借用して、スギ人工同齡林の進階年数を計算した。測定試験地とはいっても、測徑位置が固定されていなかったことや、伐倒・枯損の時期不明、ならびに伐倒直前・枯損時の測徑欠陥など、いくつかの不備があるので、かならずしも厳密な計算とは言えないであろう。しかし、スギ同齡林の進階年数に関する、わが国で最初の計算例として、資料的価値はあるものと考える。特に知見の第3点は、未発表資料と合わせみると、興味深いものがある。今後さらに計算例をふやし、考察してみたいと考える。

なお，“記録”について批判がましいことを述べたが、あるいは言い過ぎがあったかもしれない。稿を終えるにあたり、大隅教授の寛容を願う次第である。

## 文　　獻

- 1) 山畠一善：日林誌47(7), 1965.
- 2) 同上：愛媛大演報(3), 1965.
- 3) 同上：同上(4), 1966.
- 4) H. knuchel : Planung und kontrolle im Forstbetrieb, 1950.

(1970年11月12日受理)